



自動販売機も冬支度。暖かい飲み物が手軽に買えるので、寒がりの実習生に大人気です。

あじけん通信

2019 DECEMBER
VOL.144

株式会社きぼう国際外語学院
企画・編集 澁谷 健司

12月に入り、寒さが急に厳しくなってきました。研修センター中庭で、毎朝行なわれているラジオ体操では、上着を脱ぐのが辛い季節の始まりです。今年も残り1ヶ月を切りました。令和元年は、「会話掛かり稽古」や「グループ会話練習」等の新コミュニケーション活動の定着化、地域の方々との交流を深めるための「町内クリーン作戦」の定期実施等、新しい事にチャレンジしてきました。令和2年も、実習生の皆さんの日本語コミュニケーション能力の向上の為に、積極的に新しい活動を取り入れていきたいと思っております。1年間大変お世話になりました。来年もどうぞ宜しくお願いいたします。

あじけんスコープ Vol.81 講師ファイル AEP SAEPUDIN (アエプ サエプディン)先生

はじめまして。AEP SAEPUDIN (アエプ サエプディン) と申します。インドネシア人です。2004年に日本人の妻と結婚し、日本に来ました。今年で日本在住15年になります。妻と2人の子供と暮らしております。きぼうには、7年前からでお世話になっています。当初は、インドネシア人への生活指導の通訳業務をさせて頂いていました。自分も日本に来たばかりの時、不安がたくさんあったので、実習生の役に少しでも立てればとの思いで、お手伝いさせて頂いていました。そして、昨年からは日本語講師としても、実習生の皆さんと関るようになりました。



希望いっぱいの実習生達に触れていると、自分もパワーをもらえています。いい表情で、一生懸命授業を聞いてくれると、とてもやりがいを感じられて、嬉しい気持ちになっています。感謝の日々です。

授業では、コミュニケーションとは言葉だけでなく、行動も大切だと言うことを分かって欲しいと思っています。日本語が上手でも、生活の中で日本のルールや文化を理解出来ていないと問題が起きます。例えば、ゴミ出しルールを守らないと近所の日本人との関係がうまくいかず、生活しにくい状況になってしまいます。自分の国では許されていることも、日本ではそうでないことも多いので、外国で暮らしているという意識を忘れずにいて欲しいと思っています。

きぼう出身の実習生には、希望あふれる日本の生活を送っていただけるよう、心から応援しています。私も実習生達を見習って頑張っていきたいと思っておりますので、今後ともよろしくお願ひします。

今月の実習生

今月の実習生は中国人実習生の陳文軒(チンブンケン)さんです。陳さんはお弁当愛が凄く、ご覧の通りの手の込んだ手作り弁当を毎日持ってきています。お弁当箱もこだわりの逸品で、下のトレーに熱湯を入れると、食べ物を温めることができる優れ物(向かって下段右の写真参照)で、中国から持参したそうです。

日本語愛はお弁当以上。毎日クラスリーダーとして積極的に活動しています。

初めまして、私は陳文軒です。早速ですが、お弁当を紹介させていただきます。まず、写真左上の物は中国まんじゅうです。私は中国であまりお米を食べませんので、日本へ来てから、自分でまんじゅうを作っています。形はちょっと変ですけど、中国の甘いまんじゅうはほとんどこの形です。まんじゅうの右は菜碗蒸しです。まんじゅうと一緒に蒸します。まんじゅうの下はうずらの玉子です。その右はとりの唐あげです。前日羊羹で買ったとりに肉を次の朝揚げしました。最後の物もまんじゅうですけど、これはちょっとしゃべりまんじゅうです。毎日お弁当を作るのは大変ですけど、このしび

陳文軒



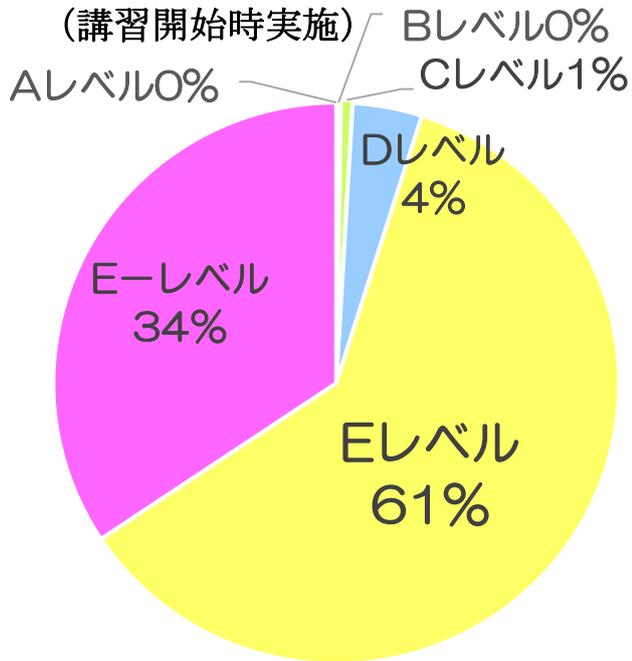
3時間目の休み時間に熱湯注入!

あじけん流日本語授業

～2019 年会話テストデータから見える日本語指導今後の課題～

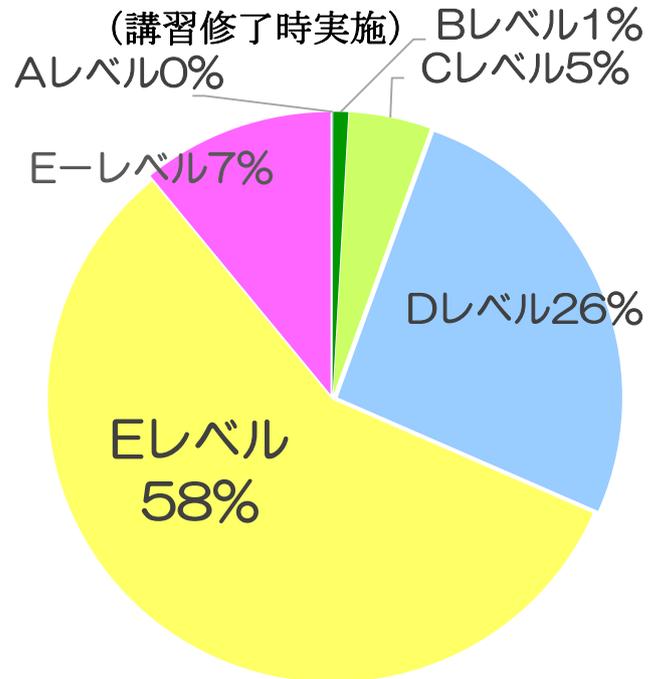
会話テスト I 判定結果

(講習開始時実施)



会話テスト II 判定結果

(講習修了時実施)



今月のあじけん流日本語授業は、今年1年間（1月～10月末まで）の本校における日本語指導の成果と課題について、会話テストのデータを基に考えていきたいと思います。

会話テストII（講習修了時実施）でDレベル（日常生活に必要と思われる基本語彙が定着しており、基本的な内容の指示や質問であれば、自然な速度の日本語で問い掛けられても、スムーズに応じることができる聴解力、また、必要に応じて身の回りのことが説明出来たり、「聞き返し」や「確認」表現が出来る語彙の運用力があるとされるレベル）以上の日本語会話を身に付けた実習生の割合が32%（Dレベル26%、Cレベル5%、Bレベル1%）となっています。本校の指導目標であり、技能実習を安全かつ円滑に行うために最低限必要と考えているのがDレベル以上の会話力なので、非常に悔しい結果です。過去のデータと比較しても、今年はDレベルの壁を越えるのに大いに苦戦したことがわかります（2017年：41%、2018年：39%）。

苦戦の一因として、実習生の来日時点で日本語力の低下があげられます。本校では、来日前に最低でもEレベル（ゆっくり話された基本的な内容の質問であれば、何とか応じることが出来るレベル）の会話力を身に付けておいて欲しいと考えていますが、そのEレベルに満たないE-（イー・マイナス）の実習生が、今年は34%に達しています。この割合は、2017年は21%、2018年は23%と、年々増加の傾向にあります。また、この数字は、来日する技能実習生の増加に伴い、今後も高くなっていくことが予想されます。

日本語事前学習不足の実習生の会話力の引き上げを、限られた期間内で達成するのは容易なことではありませんが、1人でも多くの実習生がDレベル以上の会話力を身に付けて、技能実習に旅立てるように、現地日本語学校との連携なども視野に入れ、指導カリキュラムの見直し、指導技術の向上に取り組んでいきたいと思います。

※事前日本語学習が1年～2年半と長期間のホテル実習生、企業単独型の特別カリキュラムで講習を行なっている実習生のデータは、基礎データに含まれておりません。

※当校ホームページ <http://www.ajiken.jp/> から「あじけん通信」バックナンバーもご覧になれます。